

般若波羅密多心經



名筆五体般若心經 四 篆書

吳昌碩篆書般若心經

比田井南谷編

般若波羅

般若波羅

密多心經

密多心經



觀自在菩薩

觀自在菩薩

薩分深般

薩(薩)行深般

若波羅密

若波羅密

多時照見

多時照見

五

蘊

皆

空

五蘊皆空

度

一

切

苦

度一切苦

兀(厄)舍利子

兀
舍
利
子

爭
不
異
空

色不異空々

不異色即

不異色々即

是空即

是空々即是

色受想行

識亦復如

是舍利子

是舍利子

是諸法空

是諸法空

相

不

生

不

相不生不

滅

不

垢

不

滅不垢不

淨

不

增

不

淨不增不

減

是

故

空

減是故空

中
蕪
色
蕪

中無色無

受
想
行
識

受想行識

蕪

眼

耳

鼻

無眼耳鼻

舌

身

意

無

× 舌(身)意無

多
聲
香
味

色
聲
香
味

觸
燒
蕪
眼

觸
法
無
眼

界
了
且
蕪

界乃至無

意
識
界
蕪

意識界無々

明
亦
盡
明

明亦無々明

盡
了
道
盡

盡乃至無

者
初
盡
盡

者
初
盡
盡

老死亦無

老死盡無

苦集滅道

苦集滅道

慧知亦無

無知(智)亦無

得
循
上
蕪
所

得以無所

得
故
菩
提

得故菩提

薛
墜
魚
腹

薛(薩)墜依般

若
波
羅
密

若波羅密

多
故
心
無

多故心無

挂
礙
無
挂

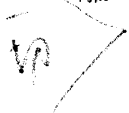
挂(罍)礙無挂(罍)

礙
故
蕪
豕

礙故無有

翹
隄
遠
齋

恐怖遠離



顛倒夢想

顛倒夢想

究竟涅槃

究竟涅槃

三世諸佛

三世諸佛

依般若波

依般若波

羅密多故

羅密多故

得阿耨多

得阿耨多

羅

三

藐

三

菩

提

故

知

般若波羅

般若波羅

密多是大

密多是大

禍
祝
是
大

神祝(祝)是大

明
祝
是
無

明祝(祝)是無

上祝是無

上祝(呪)是無

等々祝能除

等々祝(呪)能除

一切皆真

一切皆真

實不虛故

實不虛故

說般若波

說般若波

羅密多祝

羅密多祝(呪)

即說祝(呪)曰
呪祝

揚禱

揚諦揚諦

即說祝(呪)曰



滑

羅

揭

諱

波羅揭諱

滑

羅

僧

揭

波羅僧揭

諦
菩
提
薩

諦
菩
提
薩

婆
訶

婆
訶

曾見完白翁曾篆心經八憤
用筆剛柔兼施虛實並到

服膺久之茲參攔碣筆意成

此自視尚無惡態丁巳莫姦吳昌碩



呉昌碩篆書般若心經

伏見 冲敬

呉昌碩については、詳伝も略伝もいろいろあって、今さら改めて紹介の要はあるまい。清朝の末から民国の初期にかけて大きな光芒を放った巨星である。

呉昌碩に般若心經のあることは、たしか田口米舫という人が出したと思われる大判のコロタイプ本で見て始めて知った。私は若いときから呉昌碩キチといわれるほどかれに傾倒していたので、ほかの書画はともかくとして、心經だけ摸写させてもらって、夢中になって習った。原本は十二幀のようであるが、六曲屏風におさまるように工夫して、何とか書きあげた。だれかにも

る。文句なしに篆書の基礎手本として精習すべきものである。

石鼓文の筆意をとりいれているので、普通の小篆とすこしちがうところがある。いちいち注意しなければならないのだが、それをやるとたいへんめんどうなことになるので、思いついたことだけすこし書いておくことにする。テキストについても触れない。

いちばん始めの般若の舟へんが小篆風でなく、いかにも石鼓風なのが目につく。菩薩の薩を薛のように書いているのも、やかましい人からは文句が出るかもしれない。説文に薛という字があるが、呉氏は舟の上の山を省いているので、ちよつと問題があろう。苦尾の尾を兀のように書いているが、私にはどうしても出所を知ることができない。

今私の見せてもらっているのは、かなり縮小したものであるが、これが大

らってもらおうと思ったが誰ももらってくれない。ある寺から屏風に仕立ててくれればもらってもよいといってきたが、その頃は六曲屏風を作るなんて金はとてもできなかったのでさたやみとなり。六枚はついにほごになった。

今度天来書院の第一期の出版計画にこれが入っていて、解説を書くことになり、感慨ひとしおのものがある。

末に呉昌碩の識語があり、かつて鄧完白の篆書心經八幀を見て服膺之を久しうしたと書いてあり、かれが鄧完白の作品を頭において書いたにちがいない。鄧氏の心經は昭和五四年に書学院で出版されているから、持っている人も多いことであろう。鄧氏のは立派な小篆なので、呉昌碩は同じことはやりたくない。自分の得意な石鼓文の風をとりいれて書いた。「自ら視て尚ほ悪態なし」といっているが、まことにこれは呉氏の生涯でも傑作の一つであ

きな字で精印されて本になるかと思うと、ぞくぞくするほど嬉しくなる。本ができたらしつかり習って、また六曲屏風にしてみたいと思う。今なら屏風の表装代くらいは出せるから。

篆書の手本というのは、いろいろあるようで、さてどれにしようかとなると、なかなか適当なものはないものである。私の知っているかぎりでは、この呉昌碩の心經にまさるものはないと思う。鄧完白のたいへんいいものだが、習ってみて、呉氏の心經の方がどうも身につくように思うが、私のひとりよがりであろうか。これを習えば篆書のたっぷりしたよさが身につく、悪いくせのつくようなことはない。

般若心經 釈文

般 若 波 羅 蜜 多 心 經
 觀 自 在 菩 薩 行 深 般 若 波 羅 蜜 多 時 照 見 五 蘊 皆 空
 度 一 切 苦 厄 舍 利 子 色 不 異 空 空 不 異 色 色 即 是 空
 空 即 是 色 受 想 行 識 亦 復 如 是 舍 利 子 是 諸 法 空 相
 不 生 不 滅 不 垢 不 淨 不 增 不 減 是 故 空 中 無 色 無 受
 想 行 識 無 眼 耳 鼻 舌 身 意 無 色 聲 香 味 觸 法 無 眼 界
 乃 至 無 意 識 界 無 無 明 亦 無 無 明 盡 乃 至 無 老 死 亦

無 老 死 盡 無 苦 集 滅 道 無 智 亦 無 得 已 無 所 得 故 菩
 提 薩 埵 依 般 若 波 羅 蜜 多 故 心 無 罣 礙 無 罣 礙 故 無
 有 恐 怖 遠 離 顛 倒 夢 想 究 竟 涅 槃 三 世 諸 佛 依 般 若
 波 羅 蜜 多 故 得 阿 耨 多 羅 三 藐 三 菩 提 故 知 般 若 波
 羅 蜜 多 是 大 神 呪 是 大 明 呪 是 無 上 呪 是 無 等 等 呪
 能 除 一 切 苦 眞 實 不 虛 故 說 般 若 波 羅 僧 揭 諦 菩 提 薩
 訶 日 揭 諦 揭 諦 波 羅 揭 諦 波 羅 揭 諦 波 羅 揭 諦 菩 提 薩 婆

名筆五体般若心經 全六卷

四 吳昌碩篆書般若心經 — 篆書 —

一九九〇年十月二十一日 發行
一九九二年四月二十一日 三版

編 者 比 田 井 南 谷
 發 行 者 比 田 井 和 子
 發 行 所 株 式 會 社 天 來 書 院
 〒231 橫 濱 市 中 區 元 町 一 一 七 七
 Tel 〇 四 五 一 六 六 三 一 三 〇 五
 印 刷 株 式 會 社 公 和 美 術
 製 本 株 式 會 社 タ イ キ

《製作・書学院出版部》